

金融論（西山）演習

1 テーマ

金融論（主に銀行行動論、金融システム論、金融政策論）

2 テキスト

予定しているテキストの候補は下記のとおり。

- 翁百合著『金融危機とプルーデンス政策』日本経済新聞出版社、2010年
- 内田浩史著『金融機能と銀行業の経済分析』日本経済新聞出版社、2010年
- 白川方明著『現代の金融政策 - 理論と実際』日本経済新聞出版社、2008年
- 細野薫著『金融危機のミクロ経済分析』東京大学出版会、2010年
- Frederic S. Mishkin 著 “Monetary Policy Strategy” MIT Press, 2009.

3 趣 旨

金融論とは、資金余剰主体から資金不足主体への資金の投資行動、融資行動、仲介行動、証券・債券の取引価格、ならびに金融システム全体の安定性とそれに係るプルーデンス政策・金融政策を主な研究対象としている。金融論のカバーする範囲は広く、広義には資産評価論、証券投資論、コーポレート・ファイナンス論、銀行行動論、金融システム論、貨幣論、金融政策論等、広範な領域を研究領域とする。

当演習においては、担当教員の研究専攻とする領域である銀行行動論、金融システム論、金融政策論にテーマを絞って、理論・実証・制度的側面からバランスよく金融論の演習を行う。なお、金融論の内、ファイナンス的な領域である資産評価論、証券投資論、コーポレート・ファイナンス論等に興味がある者は、経営学科において関連演習が開講されているので、当演習ではなく、そちらを履修することを推奨する。

4 募集人員 5～6名

5 参加条件

2年次にミクロ経済分析、マクロ経済分析、経済経営数学、数理統計、会計原理を既に履修していることが望ましい（ただし、必須ではない）。3年次以降は、ゼミと並行して、金融論、計量分析、ファイナンス、財務会計を履修する予定でいることが望ましい（ただし、必須ではない）。また、海外留学経験者、あるいは海外留学を予定している者を大いに歓迎する。

6 選考方法（4月進級予定者）

募集人員を超える希望者がいる場合は、学業成績と面接により選考する。面接時に最新の成績証明書を持参のこと。TOEIC もしくは TOEFL のスコアがある者は、面接時にスコア（コピー可）を持参すれば、選考の際にプラスに評価する。

7 運営方針

- 毎回、全員が事前に指定されたテキストの箇所を読んできてくる。
- 毎回、プレゼンターの任を事前に割り振られた者が、テキストの指定箇所の報告・プレゼンを担当する。プレゼン時間は約 45 分、プレゼンターに対する質疑応答は約 15 分。残りの時間を使って、全員で討議する。
- 3年生は主にテキストのプレゼンターを担当。4年生は主に卒業研究を行い、定期的に進捗報告を行う。

8 担当教員の主要な研究業績

金融政策論と動学的一般均衡フレームワークにおける金融摩擦論において研究業績がある。詳しくは、担当教員のホームページ参照のこと。<http://nishiyama2001jp.com>

9 指導教員が薦める本

将来、経済学の分野で大学院への進学を考えている者に下記の著書を薦める。
加藤涼著『現代マクロ経済学講義』東洋経済新報社、2007年
西村和雄著『ミクロ経済学』東洋経済新報社、1990年

10 「ゼミ見学」の可否

いつでも可（ただし、事前に教員に連絡することが望ましい）。金融論のゼミは、学期中、火曜4限・5限に第10演習室において行われている。

11 10月進級者に対する特記事項

学期ごとに新たなテキストを選定するため、進級時期によって演習履修者のテキストが異なるということはない。

12 その他

連絡先については、担当教員の下記ホームページを参照のこと。
<http://nishiyama2001jp.com>